

Japan Association of Microscopic Dentistry

第4回日本顕微鏡歯科学会大阪大会

「顕微鏡で世界を変えよう！！」

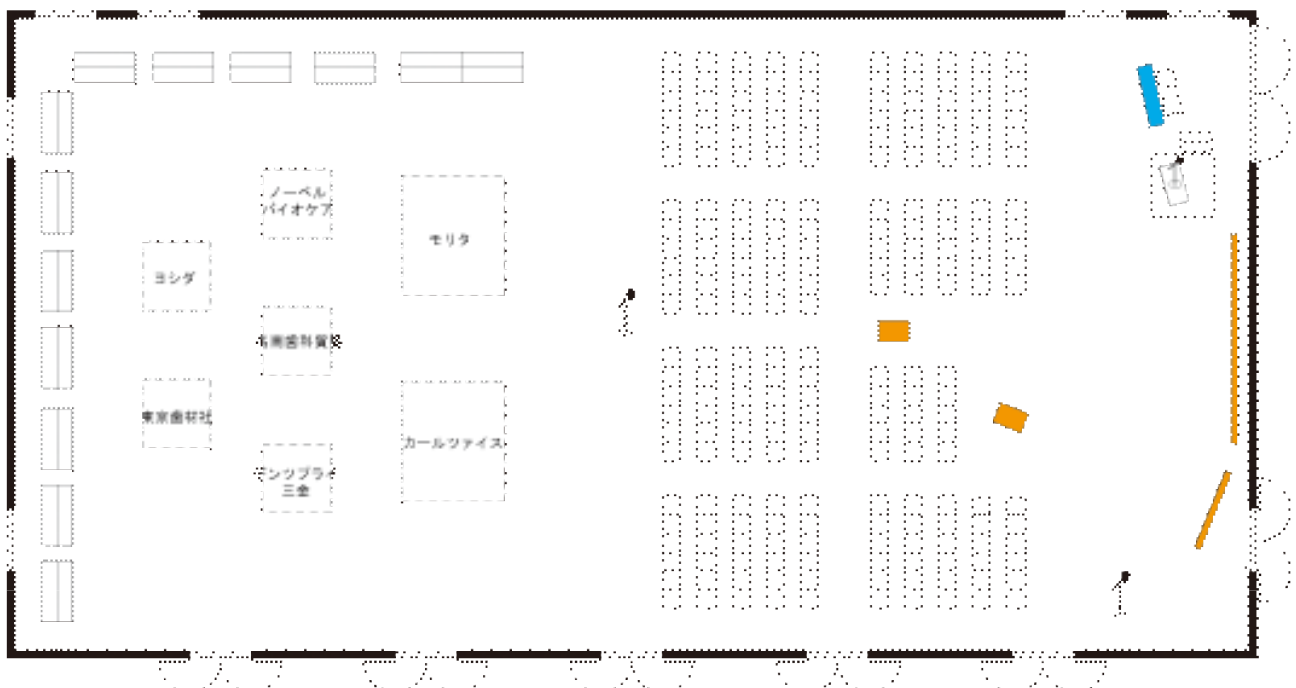
プログラム&抄録集

平成 19 年 4 月 22 日(日)

大阪梅田スカイビル “梅田ステラホール”



会場図



[プログラム]

9:00 開会式（中川寛一会長，南 昌宏大会長）

9:05 基調講演（座長：井澤常泰先生，東京都開業）

日本の歯科医療における顕微鏡の歴史

中川寛一先生（東京歯科大学教授，日本顕微鏡歯科学会会長）

歯内療法処置のみならず審美性を重要視する処置には、時として 1 mm 以下の精度が要求される。このように Precision dentistry のツールの一つとして顕微鏡は欠かせない。手術用顕微鏡の歯科治療への導入は、まさに新世紀における新たな「のぞき窓」となるに違いない。物体を見て観察することから、それを治療に組み込み生かす時代となってきた。歯科処置の多くは、数 mm のオーダーで行われる精密治療である。これら顕微鏡の臨床面での応用を歴史的に見ると 19 世紀中頃には、すでに医科領域でのルーペ応用の記録があり、1921 年には単眼の顕微鏡を中耳の手術に応用した記録が、1923 年には双眼顕微鏡の応用が行われている。また 1953 年にはツァイス社から専用の顕微鏡が開発された。歯内療法領域においては手術用顕微鏡を用いた Braumann(1975)やファイバースコープを用いた Papamichael(1976)の報告が古いが、本格的な活用が実施されだしたのは Scipioni(1991)や Carr(1992)以降である。またペンシルベニア大学の Kim らも、イタリアの Pecora らとともに主として外科処置への応用を実施してきた。さらに歯周外科、歯冠修復、など現在手術用顕微鏡は歯内療法処置、外科処置のみならず、臨床歯学において多面的な応用が試みられている。本講演ではこれらを総括するとともに、今後の展望を試みたい。



9:45 休憩

10:00 特別講演 1（座長：南 昌宏先生，大阪府開業、松川敏久先生、奈良県開業）

Immediate Implant Placement with an Immediate Provisional Restoration : Dentistry for the New Millennium.

Dr. Dennis Shanelec（米国カリフォルニア州開業）



For 100 years, Dentistry's best answer to a missing or failing tooth in the anterior esthetic zone has been fixed bridgework. This was usually preceded by extraction and a removable provisional whose other designation "the flipper" is self descriptive of its inherent limitations. This presentation is an analysis from private practice of a case series of over 200 dental implants in the anterior maxilla placed under the microscope in extraction sockets with



immediate implant supported provisionals. It will show how the microscope has changed the paradigm for extraction and restoration in the anterior maxilla.

11:30 休 憩

12:00 総 会（司会：辻本恭久先生，日本大学松戸歯学部）

12:40 休 憩

12:50 特別講演 2（座長：平田哲也先生，大阪府開業）

What I have learned in my 14 years of Restorative Microdentistry.

Dr. Assad Mora（米国カリフォルニア州開業，米国顕微鏡歯科学会会長）



Dr. Mora will discuss the turning points in his conceptual understanding of legacy theories and clinical practices. He will also discuss the resulting changes in the clinical procedures performed in his microdentistry practice, as well as the instruments and equipment used. These observations and procedures were only made possible through the use of microscope magnification and illumination.

The participants will learn about the presenter's concepts as they relate to:

1. Magnification technology
2. Microscope centered dental hygiene program
3. Treatment with composites
4. Crown design
5. Implant supported restorations
6. Dental education



14:20 休 憩

14:40 一般演題 1（座長：木ノ本喜史先生，大阪府開業）

Microscope Enhanced Impacted Mandibular 3rd Molar Surgery

Dr Vijayalakshmi Girish Kumar（インド）

A new technique to use the microscope in surgical removal of difficult impacted mandibular wisdom teeth has been developed and applied in clinical practice. The surgery was performed standing, using a longer focal length objective lens, which is a new innovation. There are significant advantages to both the surgeon and the patient. The video and still camera attachment allows very good live feed, back-up documentation for surgical skills training, and much better view for the assistant. Easier removal of broken roots, easier checking of hemi-section, use of much finer sutures and burs, cause much less surgical trauma.



14:55 一般演題 2（座長：三橋 純先生，東京都開業）

Best of Digital for MICROSCOPE

○武井則之¹⁾，斉藤 勇²⁾（¹⁾ 武井歯科クリニック，²⁾ I. S. デンタル）

現在，使用されている治療用マイクロスコープは，光源が主にハロゲンとキセノンの2種類である．一般にキセノンはハロゲンに比し光量が多く，顕微鏡下での写真撮影には有利で，ハロゲンは不向きであると考えられている．また，キセノン光は目に有害な波長を多く含むとされ，術野を直視するアシスタントなどへの安全性が懸念される．今回，我々はハロゲン光の下，ルーティンに綺麗な写真を撮影できる方法を考えたので紹介する．

15:10 一般演題 3 (座長：三橋 純先生，東京都開業)

自家歯牙移植のための上顎洞開窓を歯槽頂側から行った症例について
吉田 格 (吉田歯科診療室 デンタルメンテナンスクリニック)

この度上顎洞底が近接した部位に自家歯牙移植を行うにあたり，形成移植窩底から直接上顎洞底の開窓挙上を行い良好な結果が得られたので報告する．本法はいわゆる lateral window technique でも socket lift technique でもなく，明視野で必要最小限の剥離・骨削量で行う atraumatic な方法であり，今後インプラントへの応用も期待される．施術にあたっては顕微鏡が必須であるので，本口演ではその具体的な使用法について述べてみたい．

15:25 休 憩

15:30 一般演題 4 (座長：山田邦晶先生，京都府開業)

サイナスリフトにおけるマイクロスコープの応用
加來慶久 (加來デンタルオフィス)

上顎臼歯部のインプラント治療においては既存骨利用では対処できない際に上顎洞底増大術（以下サイナスリフト）が必要となる．サイナスリフトには側方アプローチと歯槽頂アプローチが存在し，側方アプローチは歯槽頂アプローチと比較してシュナイダー膜の挙上が確認でき，多くの挙上量を得られるという利点があるものの，手術時間が長く，外科的侵襲が大きく，そして特に後上歯槽動脈の損傷のリスクが高いなどの欠点も有する．しかし，近年の歯科医療の進歩は目覚しく，特に診査・診断におけるCTおよび診断・治療におけるマイクロスコープはその代表であり，それらは現在求められている MI すなわち最小限の侵襲，最小の介入においても不可欠なものとする．今回，私は側方アプローチの欠点を補うべく行っているマイクロスコープを用いたサイナスリフトの有用性を報告する．

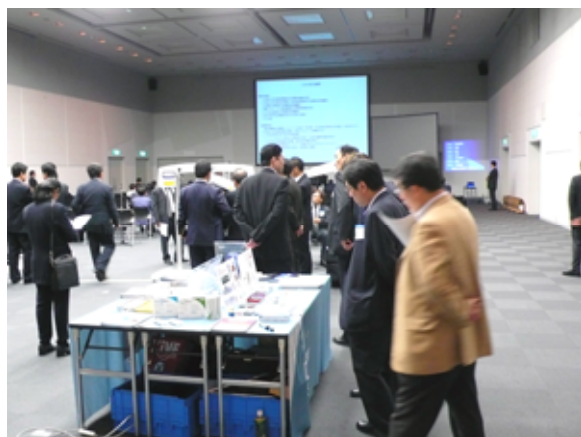
15:45 一般演題 5 (座長：山田邦晶先生，京都府開業)

インプラント治療におけるマイクロスコープの有用性
松本和久 (松本デンタルオフィス)

マイクロスコープを用いたインプラント治療は，術後の疼痛、腫脹を最小限におさえることができ，軟組織の治癒を早めることが可能な処置である．不快感を訴えられることはほとんどなく，最小限度の組織侵襲により手術が可能である．これは，拡大像にすることにより正しい臨床判断が下せ，治療の各ステップでミスを発見することができるようになり，それに逐次修正を加えることにより治療精度が高まるためである．

抜歯後即時インプラント埋入においてもマイクロスコープは有効で，肉眼では困難であった抜歯窩周囲骨の高さ，厚みなどを確認することができ，正確な位置へのインプラントの埋入が可能である．できるだけ周囲組織の保存を目的とした抜歯後即時インプラント埋入において，マイクロスコープを用いる低侵襲な処置は，高い審美性，予知性を得るために非常に有効である．

16:00 閉会式 (石井信之次期大会長)



協賛業者名2

カールツァイスメディテック(株)

株式会社 モリタ

デンツプライ三金(株)	(株)東京歯材社	ノーベルバイオケアジャパン(株)	名南歯科貿易(株)	(株)ヨシダ
(株)イナミ	ウルトラデント ジャパン(株)	サイブロンデンタル(株)	(株)ジーシー	(株)松風
スリーエムヘルスケア(株)	白水貿易(株)	(株)日向和田精密製作所	マニー(株)	(株)茂久田商会